

普及情報

「山田錦」の品質向上をめざして

1 はじめに

1998年9月22日に襲来した台風11号の影響で、県内の多くの水稲品質が著しく低下したことは、記憶に新しいところである。

神戸市北区の「山田錦」は、水稲栽培面積のうち約4割近くを占める地域特産物であるが(表1)、近年品質が良くなく、需要者である酒造業者からの評価は低い状況であった。

2 活動経過と内容

(1) 品質低下の原因を探る

JA各支店の山田錦生育調査の結果や出荷検査時の格落ち項目を分析すると、北区の山田錦の品質を低下させている要因は、①田植時期の前進による出穂・登熟期の高温②基肥・分けつ肥の多施用による過剰分けつ茎の零細化③早期落水による登熟後期の根の老化にあった。

(2) 活動体制

神戸市北区では、北農政事務所(神戸市)と神戸北営農支援センター(JA兵庫六甲)及び普及センターで「北神営農振興会」を組織し、全体会・分科会(水稲、花卉、果樹、畜産、集落営農)を通じて北区の営農振興を図っている。

表 神戸市北区における水稲栽培面積(ha)の推移

項目	年 97	年 98	年 99	年 00	年 01	年 02
水稲栽培面積	981.1	917.8	923.2	908.5	850.2	884.2
山田錦	323.5	352.5	360.0	346.3	330.9	308.6
同比率(%)	33.0	38.4	39.0	38.1	38.9	34.9

注：2002年から水稲面積のカウント方法が変わっている

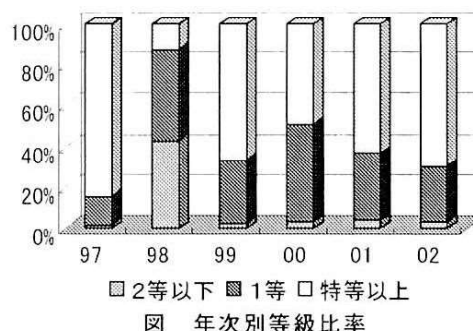
山田錦の品質向上については、水稲分科会の重要活動として取り組んだ。

(3) 具体的な活動内容

まず、関係機関に北区産「山田錦」の現状を認識させ、品質を向上させるための検討を繰り返し、意識統一を行った。特に、JA営農相談員には、自分たちの成果となるべくJAの重点営農推進計画に位置づけてもらうよう働きかけた。なかでも、8月6半月に出穂するよう田植時期を遅らせたり、過剰分けつを抑えるための基肥・分けつ肥の低減といった改善方策を農家に実践してもらうため、2001年は北区を3ブロックに分け、4月5日から9月28日まで、生育ステージごとに各ブロック7回・計21回の栽培講習会を実施した。2002年は、4月に全生産者を集めた栽培講習会と、JA支店ごとに15カ所で中干し時期の畦畔講習会を実施した。

4 最後に

栽培や畦畔講習会を行った結果、2001年から少しずつではあるが、北区の山田錦の品質が向上している(図1)。



今回の「山田錦」の品質向上の取り組みのように、関係機関が統一した意識を持ちながら多面的な活動を行うことが地域の農業振興につながると思われる。

中前 安生(神戸普及センター)